



\*創立50周年記念ロゴマーク

# 東明

□令和4年11月1日発行

□男鹿市立男鹿東中学校

男鹿市船越字根木169番地

## 50周年記念式典を挙行了しました

伝統を引継ぐとともに新たな東中の歴史を描き続けていこう！

### ◇校長式辞◇

秋も一段と深まり、秀峰寒風山の木々の葉も見事に色づく季節となりました。本日ここに、男鹿市長 菅原広二様、男鹿市教育委員会教育長 鈴木雅彦様をはじめ、多数のご来賓の方々のご臨席を賜り、男鹿市立男鹿東中学校創立50周年記念式典を挙げていきますことに、在校生並びに教職員一同、心より厚くお礼を申し上げます。



昭和47年4月、脇本、船越、二つの中学校の統合によって男鹿東中学校は誕生しました。統合当初の二年間は、校舎未完成のため、脇本校舎と船越校舎に分かれたままの名目統合で、実際に統合したのは、新校舎完成の後、昭和49年のことです。平成20年4月には弘戸中学校が統合し、現在に至ります。

開校以来、幾多の厳しい試練を乗り越え、それぞれの時代の人々の弛まぬ努力により、男鹿東中学校の歴史と伝統が築かれてきたことに思いを巡らせるとき、先人への厚い感謝の念が湧き上がってきます。

その功績は、学力向上、生徒指導、体育・スポーツの推進など、数々の指定校研究における成果や、ラグビー部の全国大会北海道・東北予選での優勝、女子バスケットボール部、柔道部の全国大会出場、吹奏楽コンクール秋田県大会十年連続金賞受賞など、スポーツ・文化、両面における数え切れないほどの素晴らしい記録として、本校の歴史と地域の方々との記憶に深く刻まれています。そして、この夏、女子柔道部は全国大会団体ベスト16に、個人でも林音芭さんがベスト16に入るといった快挙を成し遂げ、50周年に花を添えました。

本校は、この50年の間に7,253名の卒業生を送り出してきました。多くの卒業生が、本校で培った資質・能力を基に、地域の繁栄と発展を力強く支えるとともに、各界において志高く活躍し、社会に貢献していることは、本校にとって大きな喜びでもあります。

このような東中学生の活躍と成長、学校の発展は、創立30周年の際に制定された校訓『英志つらぬけ』によって支えられてきたということを、改めて感慨深く感じているところです。

在校生の皆さん、皆さんが今後生きていく社会は、想像した以上にグローバル化や多様化が進み、デジタル革新の加速に伴い、一層変化の激しい社会になることでしょう。今なお収束の

見られない新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大など、想定できないことが次々と起こりうることも、皆さんは経験しました。

このような時代を生き抜くためには、自らの頭で考えて行動する力や、新たな文化を創造し、くじけずに挑戦していく力、互いを理解し合い協働して社会を支える力を身に付けていかなければなりません。これらの力は、本校の目指す三つの志、「学ぶ、挑む、結ぶ」に他なりません。50周年の節目に当たって、皆さんが未来をたくましく生きていくためのそうした力を、校訓『英志つらぬけ』のもと、しっかりと獲得していくよう期待しています。

「わが母校 東 明るし」、校歌に歌われている一節です。東という言葉の語源の一つは太陽に向かう「日向かし」であるといわれています。つまり、太陽が昇る方向に向かって、前を向いて、という意味です。来年度、本校は潟西中学校と統合します。「東」の語源の意を捉え、50周年記念スローガンにもあるように、50年のその先に向かって、新たな東中の歴史を力強く描き続けていこうではありませんか。

結びになりますが、この創立50周年の記念すべき年を契機とし、今日まで先輩たちが築いてこられた伝統を引き継ぎ、地域の発展に貢献する学校として、新たな歴史の一步を踏み出すことをお誓いするとともに、ご多様のところ、ご臨席を賜りましたご来賓の皆様には重ねてのお礼と、今後とも本校に対しまして、一層のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。式辞といたします。

令和4年10月28日 男鹿市立男鹿東中学校

校長 森山 直人



### <お知らせ>

◎式典の様様を保護者の皆様限定で11月4日(金)16:00まで動画配信中です。URLについては、別途、Eメールでお知らせしておりますのでご確認ください。

◎「創立50周年記念誌」を編集集中です。完成の後、「広報おが12月号」と一緒に、東中学区に全戸配付する予定です。記念式典を含む50周年記念事業の様子、東中のあゆみ、今年度の東中学生の様子などを紹介していますので、お楽しみに。

